

らい 来ぶらり

図書館へ気軽にぶらりと来館していただきたいという思いで命名しました。

図書館を英語で「Library(ライブラリー)」といいます。

No. 162 3月号

2019年3月1日 発行

たつの市立図書館

龍野図書館 TEL (0791) 62-0469

新宮図書館 TEL (0791) 75-3332

揖保川図書館 TEL (0791) 72-7666

御津図書館 TEL (079) 322-1007

<http://www.city.tatsuno.lg.jp/library/index.html>

電子図書館へは、
右のQRコードから
(<https://www.d-library.jp/haritei/>)

播磨科学公園都市圏域
定住自立圏電子図書館



読書と私 No.152

「忘れられない3冊とこの頃」

御津町 岡本 仁平

その1『ジャン・クリストフ』ロマン・ローラン作10巻、ベートーヴェンがモデル。20代前半のとき感動したことは忘れられない。中身は忘却の彼方にあるが、これを読破したという事実がすごい。こんな根気・粘りが若いときはあったのか、懐かしい思い出である。

その2『エンデュランス号漂流記』船長シャクルトンの求人広告「危険な旅、微々たる報酬、帰還の保証なし、成功の際には名誉と知名度を手にする」この本のすべてを物語っていた忘れられない一文である。

その3『竜馬がゆく』こんな面白い本は他にはなかった。司馬遼太郎は、本文で「薩長同盟と竜馬のことに3,000枚もの枚数を費やした」と言う。作家とは、本とは、主題のために絶大なる文章量で表現するのだということに感嘆した。

この頃の私の読書はボリュームのあるものを避ける。『ジャン・クリストフ』を読んだエネルギーはない。読めば眠り、覚めては読み、それを繰り返す。遅々として進まず、しばしば未読のまま図書館に返却する。申し訳なく思う。

本の好きな人は何度も繰り返し読むというが、私はそうでない。どんな本も二度は読まない。その時間があれば新しい本が読めると考えてしまう。しかし、本当は、何度も読み返すような愛読書に巡り会ってみたいのだが、さて・・・。

資料で図書館にお世話になったのは、西播磨高齢者大学の卒業論文のテーマ「室津の歴史と文化」を作成する際に、数々の資料をお借りし何とかまとめ上げ、つつがなく卒業できたことである。お礼申し上げたい。

※『読書と私』は図書館の利用者に執筆していただいています。

『メルロ＝ポンティと〈子どもと絵本〉の現象学—子どもたちと絵本を読むということ—』

正置 友子 著 風間書房



「ひとなる」、これは生きとし生けるものすべての成長を言い表す言葉である。本書は、約50年大阪の文庫で子どもと関わってきた著者が、哲学者メルロ＝ポンティの『知覚の現象学』に導かれ、誕生から「ひと

なる」過程の子どもたちと絵本を読むことで起こる現象とその意味についてまとめたものである。

文庫では、年齢別に“だっこでえほんの会”を行っている。あいさつの後、詩を大人たちで読み、わらべうたをしてから、絵本を読む。最初のわらべうたをもう一度してから、終わりに定番のわらべうたをする。継続的に行うえほんの会で子どもたちがひとなっていく過程を見ていくと、顔の表情、身体の動かし方から、からだ全体で絵本を見ていることがわかってくる。

3歳半ぐらいになると、親の膝から降りて、小

さいながらも勇敢に絵本の前に座る真剣な姿が見えてくる。メルロ＝ポンティは「言葉は、事物の中に住み込み、意味を運搬するものでなければならぬ」と述べている。美しい季節の詩やわらべうた、絵本という総合的に表現される文化メディアと、意味ある言葉を連綿と届ける大人が傍らに存在することで、子どもは安心の場を確保して、生きた言葉を体験することができる。それが習慣になると、声になって聴いた言葉はその後、子どもの人生で生きる糧となる。

たつの市立図書館でも各館で職員が子どもたちとおはなし会をしたり、来館してくれた子どもと一緒に絵本を読んだりしている。読み手の大人も聴き手の子どもと心の絆を結べるように、美しい言葉を表出して、ひとなっていく子どもたちを見守っていきたくなる。そんな優しい気持ちにさせる一冊である。

(揖保川図書館 竹内)

トピックス イベントのお知らせ

※申込、問い合わせは各図書館まで

新宮図書館

読み聞かせ講座 「子どもと分かち合う絵本の楽しみ」

絵本が子どもたちに与える影響について、また絵本選びや読み聞かせの方法について、分かりやすくお話していただきます。

【日時】3月13日(水) 10時30分～12時

【講師】小西 美穂 氏 (元 宍粟市立図書館長)

【場所】新宮図書館 研修室

【対象】ボランティア等子どもと本にかかわる全ての方

【定員】20名(先着順・要申込) 【申込】新宮図書館(電話可)



龍野図書館

世界に限定33部の貴重本の一般公開

ミケランジェロ ラ ドッタ マーノ

『Michelangelo-La Dotta Mano』

龍野さくら祭期間中、下記の日程で貴重本を公開します。

【日時】3月30日(土)・31日(日)

いずれも11時～15時

【場所】龍野図書館 2階 展示室

～レファレンスサービスをご活用ください！～

「レファレンスサービス」とは、利用者の皆様の調べものについて、図書館の資料を使ってそのお手伝いをするサービスです。「〇〇の本は図書館にあるかな?」、「たつの市の醤油づくりはいつから始まったの?」などといった相談に適切な資料を用いて、情報を提供します。資料がたつの市内の図書館になくても、他図書館から取り寄せることも可能です。

「調べたいことがあるけど、調べ方がわからない・・・」といった相談にも応じています。

諦めてしまう前に、まずはお気軽に図書館職員までお問い合わせください!

※注意事項

- ・レファレンスの内容によっては、お時間を頂戴する場合があります。
- ・宿題や懸賞問題の答え、個人のプライバシーに関する質問等、図書館が回答すべきでない判断した質問にはお答えできません。



『くんちゃんのはじめてのがっこう』

ドロシー・マリノ さく まさき りりこ やく ペンギン社



くんちゃんは今日から1年生です。学校に行くことが嬉しくて、お母さんと家を出てから出会った動物たちに、「ぼく、がっこうへいくんだよ。きみもがっこうへいく？」

と道々尋ねて歩きます。学校に着くと、お母さんとはお別れです。くんちゃんはお母さんと一緒にいてほしいと思いましたが、先生はくんちゃんだけを教室に連れて行きました。

1時間目が始まりました。くんちゃんは字を読んだり書いたり、計算をすることができません。くんちゃんは先生に指されないようにどんどん小さくなりました。とうとうくんちゃんは他の1年生と一緒に、前に出てくるように言われました。困ったくん

ちゃんは開いていた戸口から飛び出してしまいます。先生は友だちのハリエットに名前と同じ“は”で始まる言葉を知っているか尋ね、ハリエットは「はな」と答えます。次に先生は、スージーにも同じように尋ねました。くんちゃんはその度に「ぼくも知ってる」と思いました。最後にくんちゃんの名前が黒板に書かれた時、くんちゃんは窓の外から思いっきり背伸びをして、「くま、くるみ、くまんばち！」と叫びました。それから、はりきって教室に戻りました。

くんちゃんの学校への期待と不安とが、温かな2色刷りの絵と文章から伝わってきます。くんちゃんが自信を持ち、楽しげに学校に行く姿に微笑ましい気持ちを抱きます。読んであげるなら5歳くらいから。

(新宮図書館 山崎)

『ポルコさま ちえばなし』 ロバート・デイヴィス 文 瀬田 貞二 訳 岩波書店



スペインのどこか、遠い山の上にブタのポルコさまの家があります。ポルコさまは、あらゆるものの友達で、人間でも、どんなけものでも、ポルコさまに助け

てもらいたいと思えば、きっと助けてもらえるのでした。

ある夜のこと、ポルコさまの家に將軍家の厩番のアントニオがやって来ました。アントニオは將軍の白馬が歩けなくなったせいで、將軍から追い出されそうになり、相談に来たのでした。ポルコさまはすぐに白馬に会いに行き、足の裏に折れ釘が刺さっていることを知りました。そこでポルコさまは、町で一番歯の力の強いネズミのイスラエルおじさんと若いネズミたちを集め、仕事にかかりました。

まずは、イスラエルおじさんが折れ釘を探し出し、それにがっちり食らいつきます。そしておじさんにつながった綱を、300匹の若いネズミたちが引っ張ります。しかし、釘はびくとも動きません。困ったポルコさまは、ネズミたちの一番うれしいことが「粉屋のずるい黒猫のおともらいをすること」だと聞き、「今引いているものは、黒猫を墓場へ運ぶおともらいの車だと考えてごらん」と言い、「ネコのともらい、よいやさのよやさ、かんおけひっぱれ、よいやさのよやさ」と唄い囃はやしました。すると、ネズミたちはにわかにながりがみなぎり、綱はピンとはり、とうとう釘は抜けたのでした。

知恵者で愉快的なポルコさまの導きで、けものたちが活躍する小気味好いお話が8編。8歳くらいから。 (龍野図書館 西田)



3月の行事予定

※詳細は各館へお問い合わせください。

★ えほんのじかん・・・絵本の読み聞かせ、わらべ歌など

龍野図書館 【対象】1～3歳児、保護者

9日(土)・16日(土) 11時～11時20分
『こんにちは』他

新宮図書館 【対象】2～4歳児、保護者

11日(月)・24日(日)・25日(月) 11時～11時20分
『いただきます』他

揖保川図書館 【対象】2～4歳児、保護者

2日(土)・9日(土)・16日(土) 10時30分～10時50分
『だっこだっこだーいすき』他 ※4月から時間が変更になります。

御津図書館

【対象】1～4歳児、保護者

10日(日)・17日(日)
11時～11時20分
『つらがぼーっとん』他

【対象】5歳児～

10日(日)・17日(日)
11時30分～11時50分
『ももたろう』他

★ おはなしのじかん【対象：5歳児以上】・・・昔話などの語り、絵本の読み聞かせなど

新宮図書館

2日(土)・9日(土)・16日(土)・23日(土)・
30日(土) 10時15分～10時45分
「エパミナダス」他

揖保川図書館

2日(土)・9日(土)・16日(土)
11時～11時30分
「ミリー・モリー・マンデーおつかいにいく」他

★ 読書会【対象：一般】・・・本を読んで感想を話し合う

龍野図書館

8日(金)
10時～11時30分
『流れる星は生きている』
藤原 てい 著

揖保川図書館

1日(金)
10時～12時
『風琴と魚の町』
林 芙美子 著

御津図書館

20日(水)
13時30分～15時30分
『手紙』
東野 圭吾 著

★ 子どもの本を読む会【対象：一般】

龍野図書館

14日(木) 10時～11時30分
『ひみつの海』アーサー・ランサム 著

龍野図書館・中央公民館駐車場の使用について

駐車場工事のため、3月15日(金)まで、図書館駐車場の一部は使用できません。また公民館駐車場も使用できません。大変ご迷惑をおかけしますが、ご了承下さい。
※工事の都合で時期を変更する場合があります。

館内特集・展示 (一部紹介)

龍野図書館

書を片手に でかけよう!

春の陽気に誘われて、街や野山へ出かけてみませんか。いろんな発見があるかもしれません。お出かけに役立つ本を取りそろえています。

【期間】4月30日まで

新宮図書館

子どもの本で 社会を知る

最先端技術や社会の仕組みが書かれた子ども向けの本を読んで、現代の社会を勉強してみませんか。苦手な分野も身近に感じることができるかもしれません。

【期間】3月31日まで

揖保川図書館

あなたは何派?

どのような分野でも、個人や組織の持つ特徴から派閥を形成したり、属性で分類されたりすることがあります。さまざまな分野で、あなたのお好みの流派を探してみませんか?

【期間】3月31日まで

御津図書館

平成を振り返ろう

2019年4月30日で「平成」が終わり新元号に代わります。あなたの心に残っている出来事は何か? 「平成」とは、どのような時代だったのかをベストセラー小説や写真集等で振り返ります。

【期間】4月30日まで